

### e. ヴィクトリア時代のイギリス(2)

19世紀中期から後期にかけての[1 **ヴィクトリア**]女王のもとで(1837~1901)にイギリスは全盛期をむかえた。トーリー党は[2 **保守**]党として地主、貴族らを基盤とする政党に、ホイッグ党は[3 **自由**]党として産業資本家中心の政党となり、自由党[4 **グラッドストーン**]、保守党[5 **ディズレーリ**]が交互に政権につく二大政党時代をむかえた。このなかで二度の[6 **選挙法改正**]で普通選挙が実現、教育法や労働組合法などの民主的政策も進んだ。

対外的には植民地獲得の[7 **帝国主義**]政策の方向をつよめた。1875年の[8 **スエズ**]運河株買収や1899~1902年の[9 **南アフリカ**]戦争がその画期とされる。

他方、国内では[10 **アイルランド**]の自治権賦与の問題が深刻化した。また1884年ウェブ夫妻らが結成した漸進的な社会主義をめざす[11 **フェビアン**]協会と労働運動が合流、1906年[12 **労働**]党が成立する。

### 3. アメリカ合衆国の発展 a. 領土の拡大

独立後のアメリカ合衆国=ヨーロッパとのむすびつき強い

①[13 **ジェファソン**]大統領の政治(Jeffersonian Democracy 1801~1809 第3代)

孤立主義→ヨーロッパ戦局への[14 **中立**]主義

②1812~14[15 **アメリカ=イギリス**]戦争(「第二次独立戦争」)←[16 **ナポレオン**]戦争の余波意義 17 **経済的自立** の進展→北部工業の発展、西部開拓へ

③「外交的自立」=[18 **モンロー教書**]発表=「孤立主義」外交の具体化(第5代大統領)

④1820年代後半[19 **ジャクソン**]大統領(第7代)の政治(Jacksonian Democracy)

[20 **資本家勢力**]をおさえ、白人勤労者(労働者・自営農民など)ための政治をすすめる



[21 **民主**]政治の進展、先住民への迫害政策をとる

#### アメリカの政党

連邦主義派→反ジャクソン派=ホイッグ党→のち[22 **共和**]党に  
北部の資本家などを基盤とし、合衆国としてのまとまりを重視

反連邦主義派→ジャクソン派=[23 **民主**]党  
南部・西部の農民や、都市小市民などが基盤とし、州の自治権を重視

⑤西部開拓の進行=[24 **フロンティアの西漸**]

1)土地の購入=1803フランス([25 **ナポレオン**])からのルイジアナ購入など

2)[26 **インディアン**]の追い出し、絶滅政策

1830[27 **強制移住**]法→[28 **保留地**]へ追いつめる

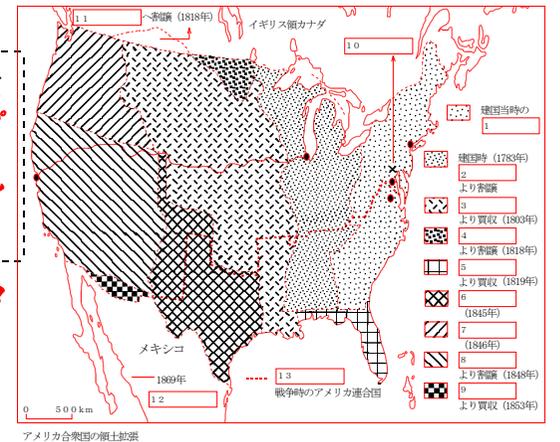


19世紀後半、激しい抵抗運動を実施

強制移住法…西部出身の[29 **ジャクソン**]大統領がだした法律。[30 **農民**]の要望を受け入れ、[31 **ミシシッピ**]川東岸の[32 **インディアン**]を強制的に[33]の保留地へ移動させた。この結果、多くの[34 **インディアン**]が途中で命を落とした。

3)「35 **明白なる天命**」(Manifest Destiny)を主張→[36 **メキシコ**]などから領土を奪う

「明白なる天命」…[37 **合衆国の**]拡張は未開拓地域の[38 **文明化**]を意味することで、アメリカが[39 **神**]から与えられた使命という考え。



1845 [40 **テキサス**]併合 (←メキシコから奪う)

1846 オレゴン併合

1846~48[41 **アメリカメキシコ(米墨)**]戦争 →カリフォルニア併合

4)[42 **フロンティア=スピリッツ(精神)**]の形成=「草の根民主主義」

フロンティア=スピリッツ…[43 **西部開拓**]のなかで生み出されてきたアメリカ人独特の精神。[44 **実力主義**]や自由で[45 **進取**]の性格などをいうことが多い

合衆国が経済的にヨーロッパから自立したのは1812~14年の[46 **アメリカメキシコ**]戦争であった。ヨーロッパにおける[47 **ナポレオン**]戦争が波及したこの戦争の期間、ヨーロッパとの交通がとだえたため、国内工業の発展など経済的自立が促進され、また国民意識のたかまりもみられた。1823年ヨーロッパからのアメリカ大陸の自立を宣言した[48 **モンロー**]教書はこのような合衆国の自立を背景にしていた。

また合衆国は西部「開拓」=フロンティアの西進をおしすすめる、自由と進取の気質、実力主義などを内容とする[49 **フロンティア**]精神を形成させた。しかしこの過程は同時に[50 **インディアン**]からの土地の取りあげと[51 **メキシコ**]などの領土を奪うことでもあった。

この二面性を政治でしめしたのが西部出身の第7代[52 **ジャクソン**]大統領(1829~39)であった。かれは資本家をおさえ自営農、労働者の権利拡大を図るなど民主主義的改革をすすめる一方で[53 **強制移住**]法をだしインディアンの追いだしをはかった。なお、ジャクソンの改革の支持派は[54 **民主**]党、反ジャクソン派はホイッグ党(のちの共和党)を結成した。